

メール総会議事録 兼 総会議題2(会費値上げ)に関する再確認依頼

2020 年 3 月 20 日締め切り（総会開催日とする）

メール総会参加者

吉田進、中ノ瀬啓作、石田直章、田村祥、中元伊知郎、吉田寿子、高橋省吾、福嶋康人、岡本孝義、瀬尾桂一、仲博幸、大堂秀樹、岡田有史、三浦浩、森英二、向井英司、宇城元、以上 17 名

(A) メール総会には正会員の過半数(17/21)が参加したので定足数を満たしている
るので、総会は成立。

(B) 議題1, 2, 3, 共に出席者の過半数(13/17)の賛同を得たので、基本的に全て
原案通りで可決成立。ただ、議題2に関しては種々意見が出た事も勘案し、
理事長裁量にて理事会に差し戻し、再審議結果、最終案を下記の通りとする
ので、正会員の皆さんには補足説明にも留意の上、項目毎に改めて再
確認をお願いする。

(1) 正会員費：¥ 30,000. (当初提案から変更無し)

基本的には正会員の皆さんから大きな反対意見はなかった。

寧ろ、他競技団体との比較感から、¥ 50,000 でもよいのではないかという意見
もあったが、あまりに急激な値上げは避けるべきと判断、原案通り、¥ 30,000
とする。

(2) 選手登録費：¥ 10,000 (当初提案から変更無し)

他競技団体の実態は、その団体の財政状況(スポンサー状況)次第で、登録
費無しから数万円まで千差万別。一方、JPPF の現在の財政状態、又この登
録費の中からスポーツ行事保険や IPC 登録料を賄っている事を勘案すれば
¥ 10,000 は妥当と判断される。

(3) 審判登録費：¥ 10,000 (当初提案から変更無し)

特に正会員の皆さんから異論は出なかったが、他競技団体との比較感から
見ても妥当と判断される為、原案通り¥ 10,000 とする。

(4) 団体登録費：¥ 20,000 (当初提案から変更無し)

特に正会員の皆さん異論は出なかったが、団体登録をすると、競技スーツに
企業名を掲載できるなど、企業にとってもそれなりのメリットがあるので妥当と

判断、原案通り¥20,000とする。

- (5)大会参加費:全日本¥10,000、チャレンジカップ¥5,000、国際大会は別途IFの指示による。(当初提案から変更)

正会員の皆さんの意見も参考に、国内大会では、全日本とチャレンジカップの参加料に差をつけた。尚、全日本の参加料に関しては、他競技団体の同規模の大会参加料と比較して妥当なレベルと判断している。

- (6)賛助会員費:最低2口(当初提案から変更無し)

正会員の皆さんから特に異論は無かったので、原案通り最低2口とする。

賛助会員の方々には、連盟の財政実態や環境を丁寧に説明し、賛助会員費を2口以上お願いする。

<補足説明>

2020年以後は、公的助成金やスポンサーの支援が減額される事は容易に想像されます。この様な環境を踏まえ、公的助成機関は、今後の助成方針の判断材料として、競技団体の将来に亘る存続可否を注視しており、特に財政面に於いては、使途自由の収入総額が1千万円をクリア出来ているか否かを一つの目安としています。

これに対するJPPFの現状は、残念ながら総会議題2に関する原案の表の通り、種々会員費・登録費・大会参加費・賛助会員費等の値上げや、スポンサー契約が継続出来たとしても1千万円ギリギリなのが実態です。

勿論JPPF経営執行部とすれば、更なるスポンサー獲得やイベント収入の向上策(イベント収入の選手との配分見直しを含む)の営業努力は致しますが、特に会員費や登録費・大会参加料に関しては、正会員・選手の皆さんにも連盟の財政的実態をご理解頂き、値上げにご協力賜りたいと思います。

又、選手・コーチの活動を裏から支えている連盟執行部及び事務局の業務実態は、まさにブラック企業そのもので、理事は全員無償労働、事務局員は薄給にも拘わらず、週6~7日勤務、毎日残業状態となっています。この様な業務実態改善の為に、先ず連盟の財務状態の向上を図り、以って事務局員を増員する以外なく、この観点からも、今回の一連の値上げは、その第一歩と考えており、この点に関しても、正会員・選手の皆様の特段のご理解・ご協力をお願い致します。